

2012/04/17 プロジェクトチーム会議資料

地域比較カルテの活用について

～分野・地域・時期を横断した
情報共有による地域マネジメント～

新たな行政サポートシステムの展望

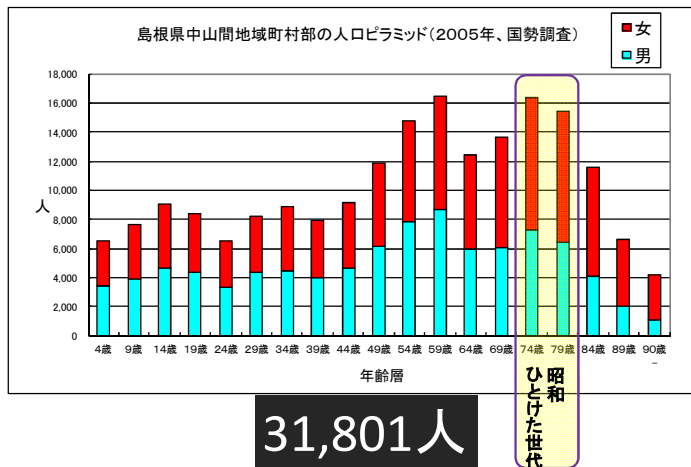
島根県中山間地域研究センター
地域研究スタッフ
研究企画監 藤山 浩

1. 時代のミッションを共有する

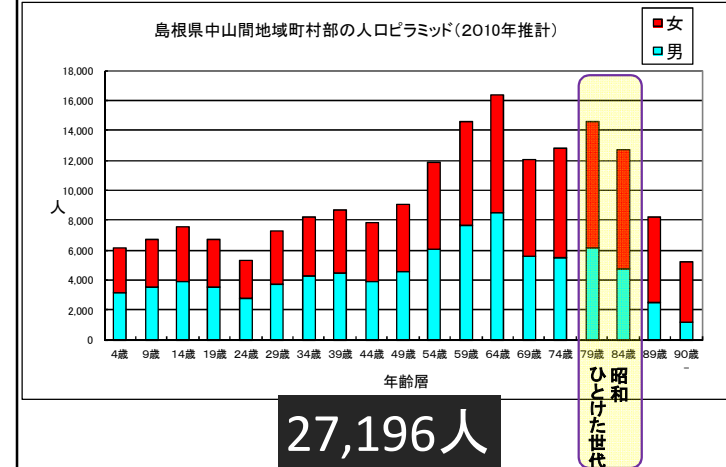
迫る「2015年危機」と

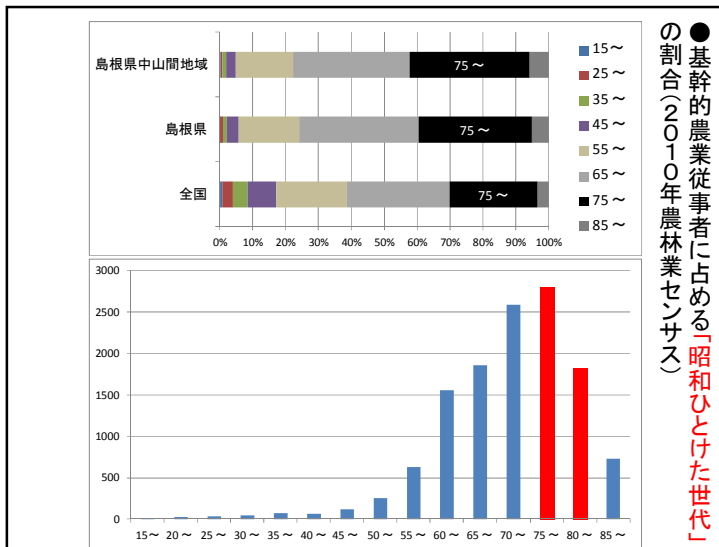
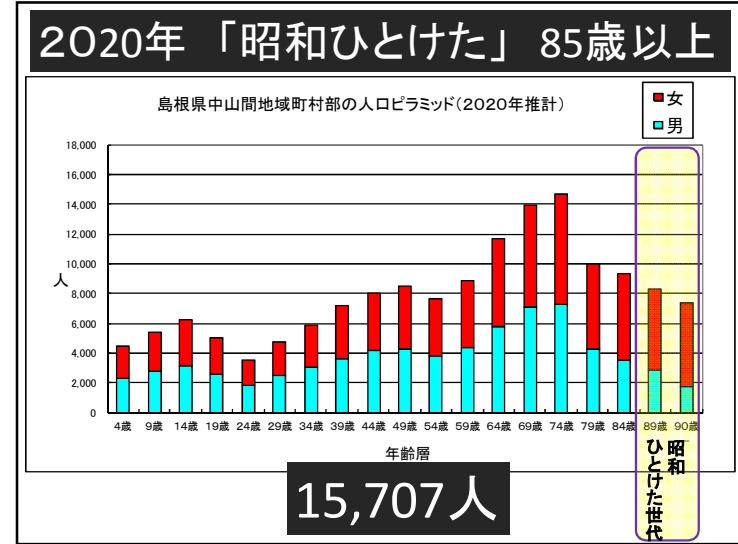
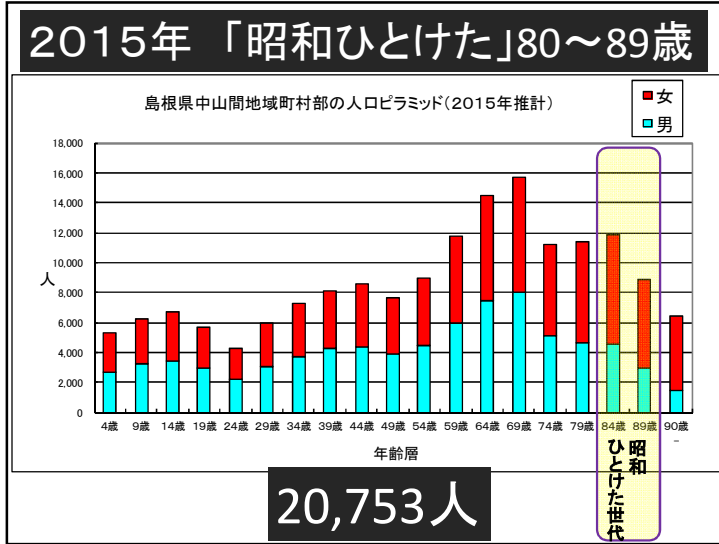
待ったなしの次世代定住

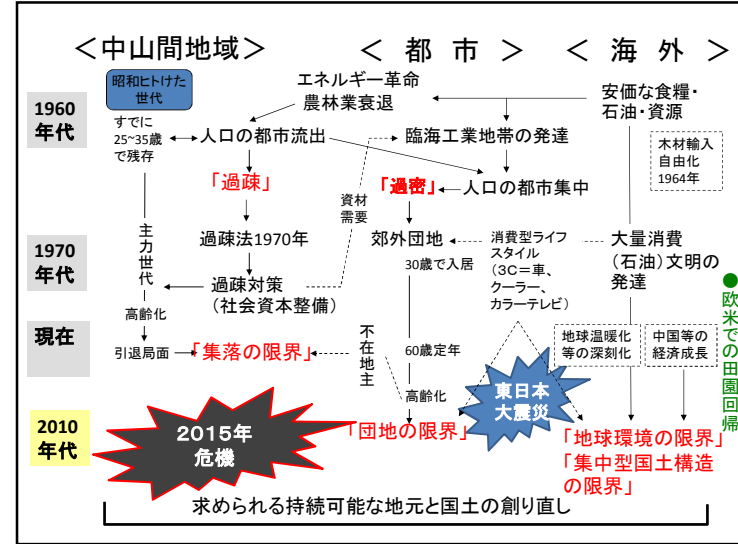
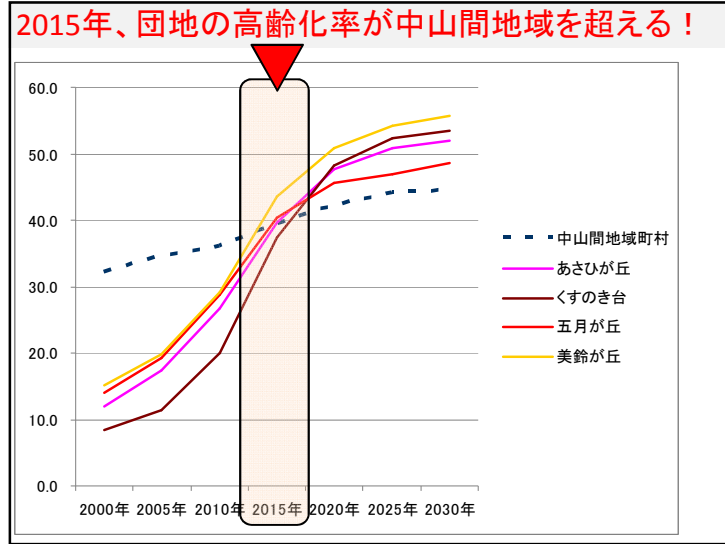
2005年「昭和ひとけた」70～79歳



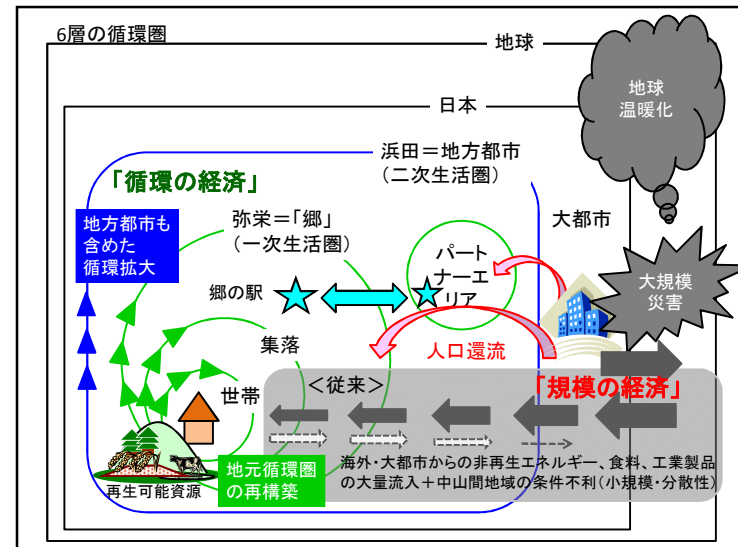
2010年「昭和ひとけた」75～84歳







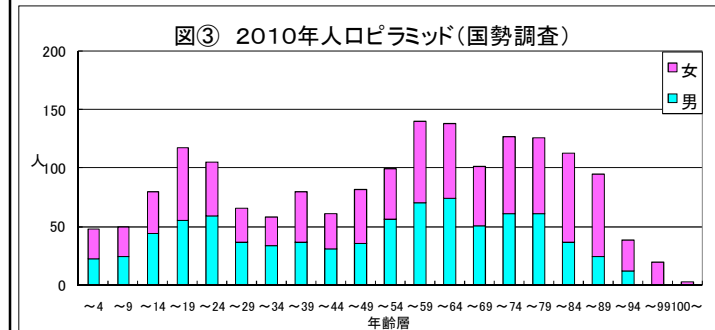
「循環の経済」に向けて～「規模の経済」+「範囲の経済」			
経済原理	<自給の経済> まとまり	<規模の経済> 分断	<循環の経済> つながり
年代	～1959年	1960年～2010年	2011年～
時期	戦後復興～	高度経済成長～	東日本大震災～
国土構造	都市・農山村均衡	臨海大都市集中	田園回帰(郷還り)
配置	分散	集中	+分散化
規模	中小規模	大規模	+小規模
分野	多様性	専門化	+複合化
空間連携	地方都市圏	遠隔化	+近隣循環
基本単位	地方都市&地元	全国一律&グローバル	郷(=地元循環圏)&都市パートナーエリア



2. 定住の目標を共有する

人口1,000人当たり
毎年2組、10人の
子連れ & 若者ターン増加
で変わる
地域の未来シナリオ

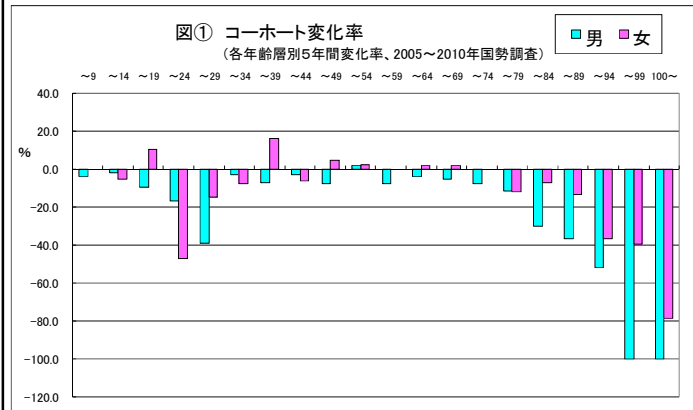
1. 現在の年齢構成(奥出雲町阿井地区、以下同じ)



現在、人口1,750人、高齢化率36%

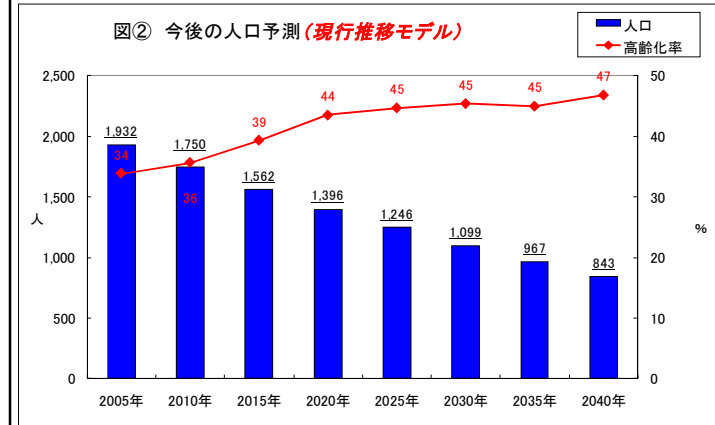
2. 年齢階層別の人口増減(流出入)率

* 5年前の5歳若い集団との比較



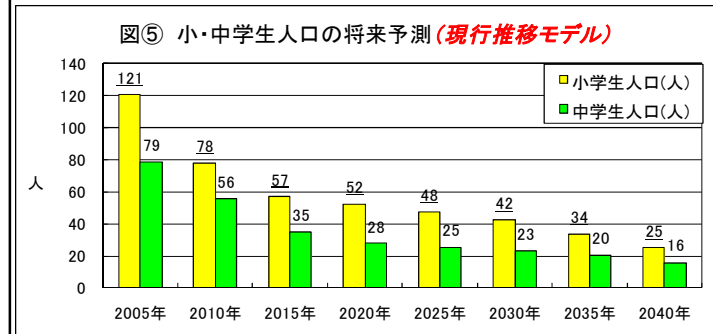
10代後半と30代後半の女性流入がやや目立つ

3. 現状推移シナリオ(2000~2005年動態が継続)



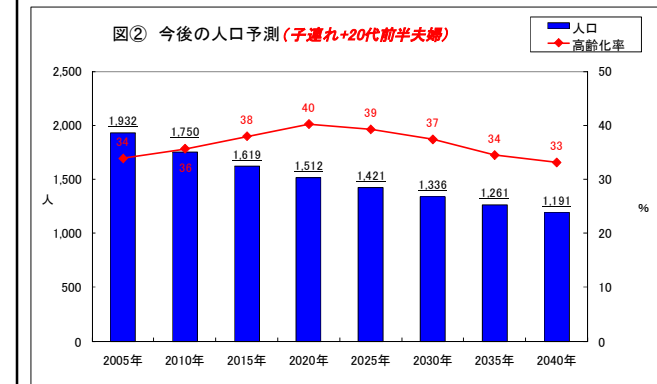
このまま推移すると20年で人口が3分の2未満！？

4. 小・中学生の人口予測(現状推移シナリオ)



長期的に小・中学生数の下げ止まりが見えない！？

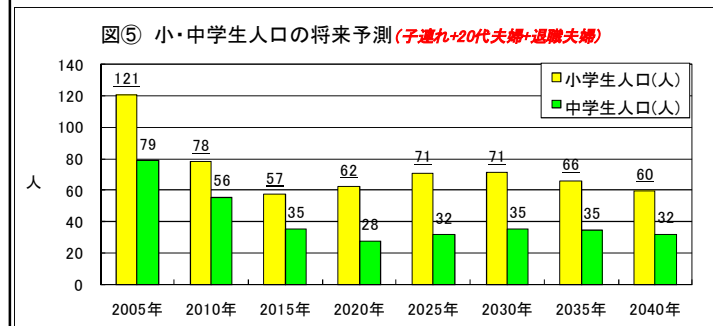
5. U&Iターン増加シナリオ



高齢化率が上げ止まり、人口減少が緩やかに

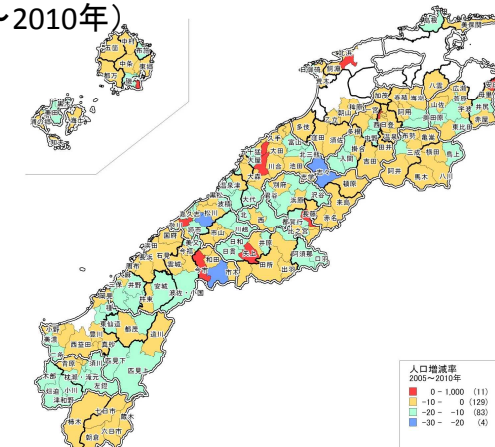
●想定条件Ⅱ 30代前半夫婦(4歳以下の子供)と20代前半男女が毎年、各2組、現行よりも流入増加

6. 2025年の予測年齢構成(U&Iターン増加シナリオ)



小・中学生の数も長期的に安定

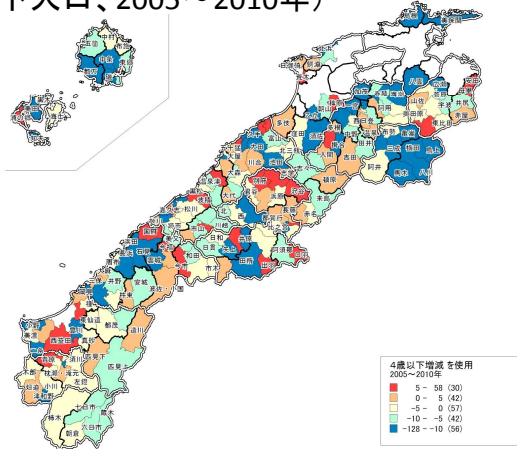
全県定住カルテ・マップ分析 ①人口増減率
(2005～2010年)



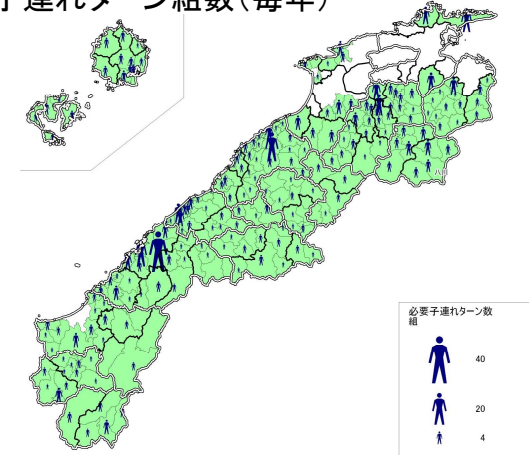
*小学校区・公民館区等の基礎的なコミュニティ単位

地域政策課と全市町村と共同して今年度初めて作成

全県定住カルテ・マップ分析 ②子ども数増減率 <4歳以下人口、2005～2010年>



全県定住カルテ・マップ分析 ③必要子連れターン組数(毎年)



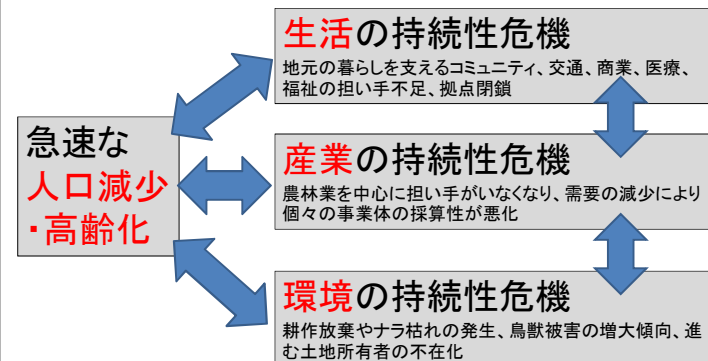
定住人口カルテによる2005年、2010年、2020年比較

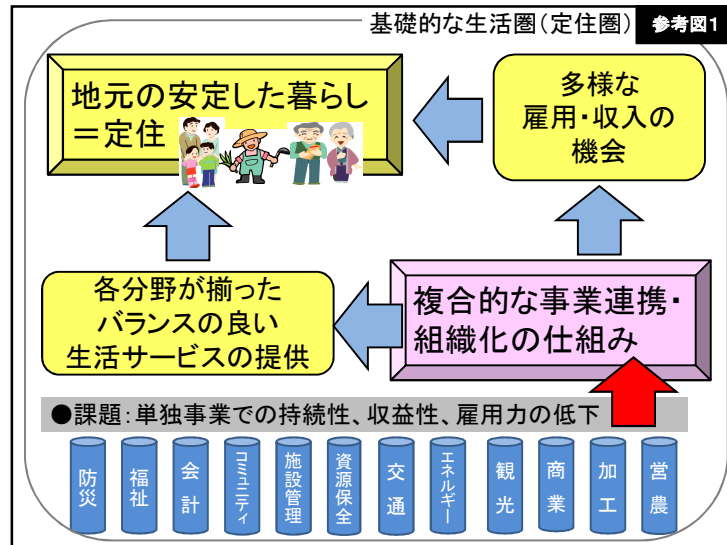
中山間 226 地区 *激増1 地区を除く	平均世帯 数	平均人 口	人口 増減 率	平均 高齢率	平均小学 生数	子連れ& 若者ター ン平均必 要増加数 (合計)
2005	518戸	1471人		36.5%	77人	年間2.4 組・13人 増
2010	504戸	1370人	-6.9%	38.4%	66人	(年間 542組増 加)
2020 (予測)		1150人	-16.0%	43.0%	51人	

このまま進むと2020年には、大幅な人口減少・高齢化・少子化に見舞われる。

* 2005～2010年の人口動態が継続したと仮定して計算した速報値

<3つの定住条件の複合的悪化>

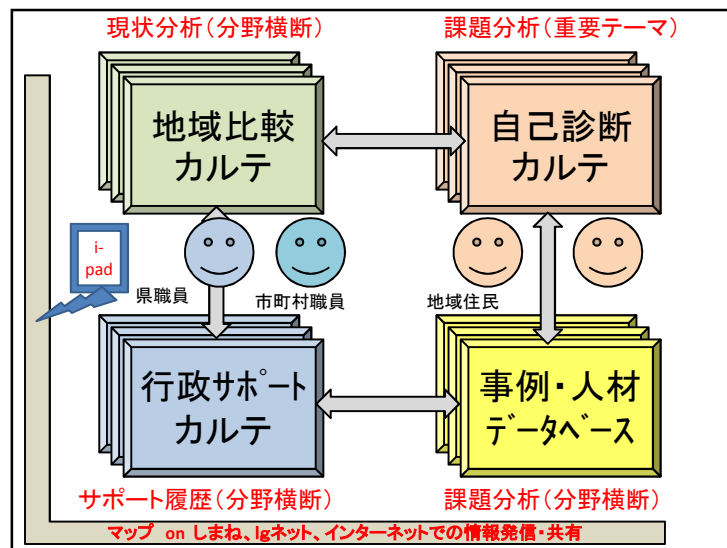




3. まず、県庁で 地域・分野・時期を横断した 情報共有の仕組みを創る！

従来からの3つの課題

- ① **GM** = 「現場を見ない」
→ 地域に密着した情報集約が不足
- ② **TW** = 「縦割りが優先」
→ 分野ごとに情報がバラバラ
- ③ **KZN** = 「継続性が無い」
→ 担当が変わるとわからなくなる

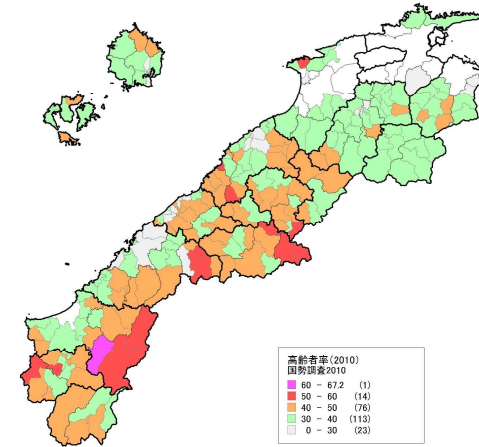
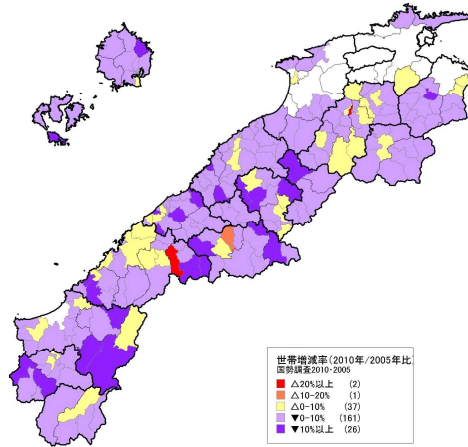
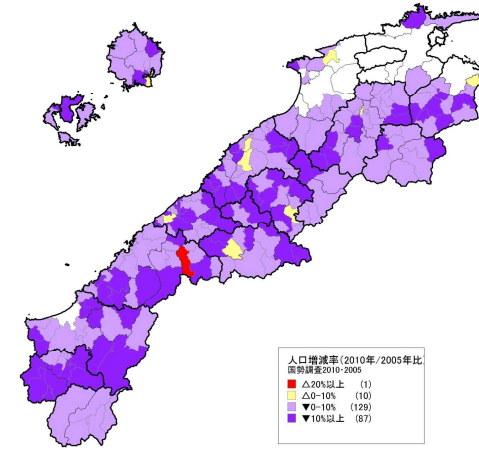
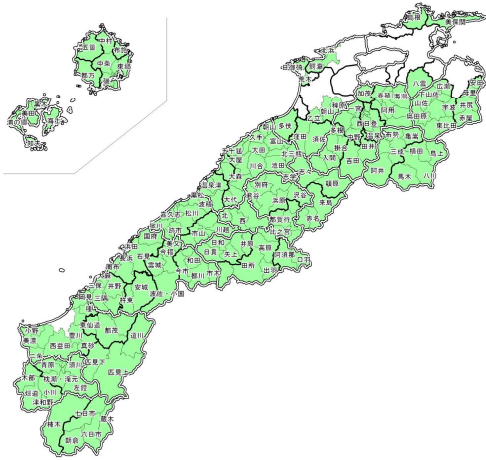


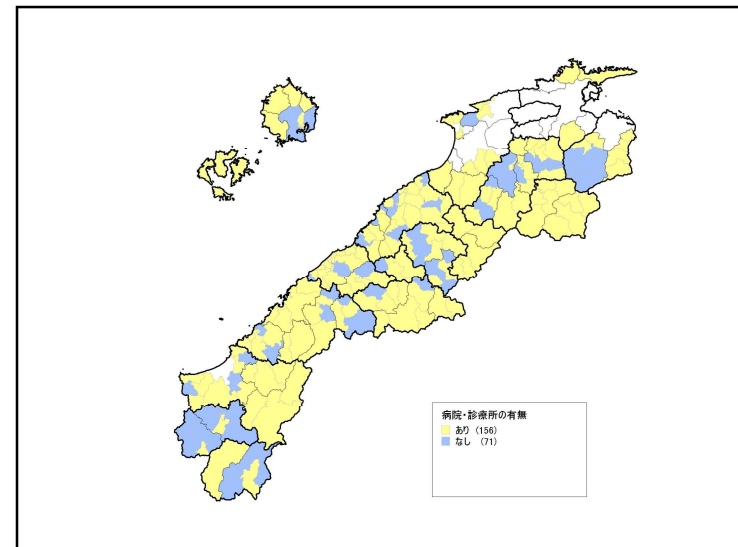
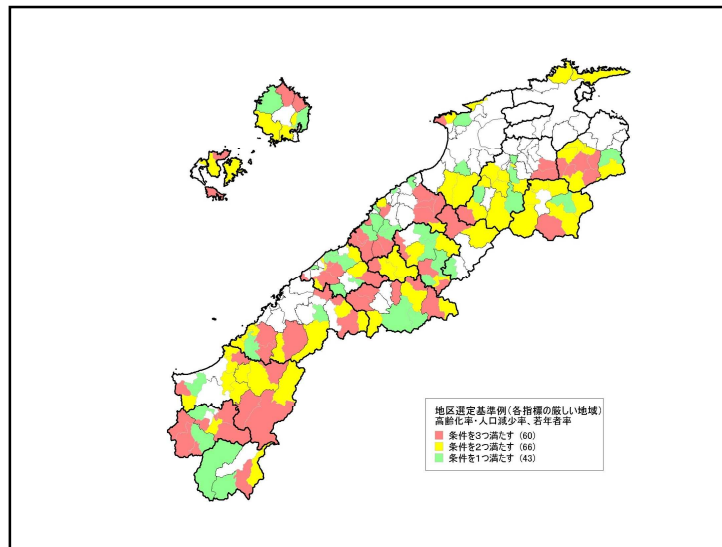
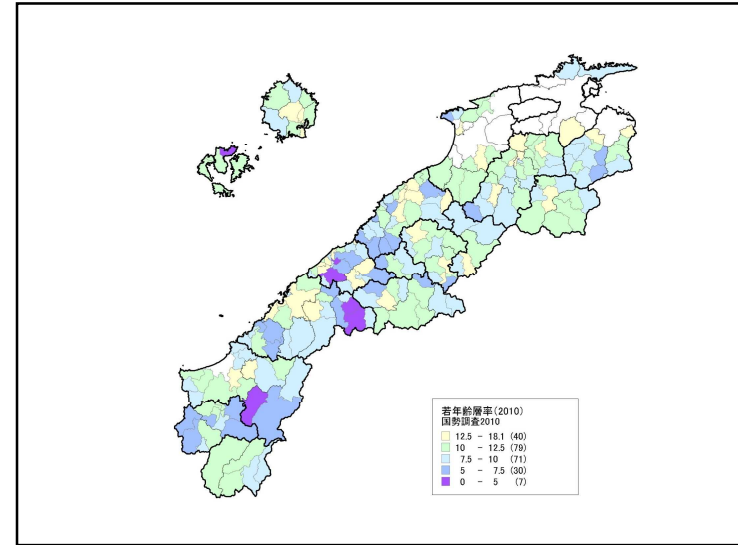
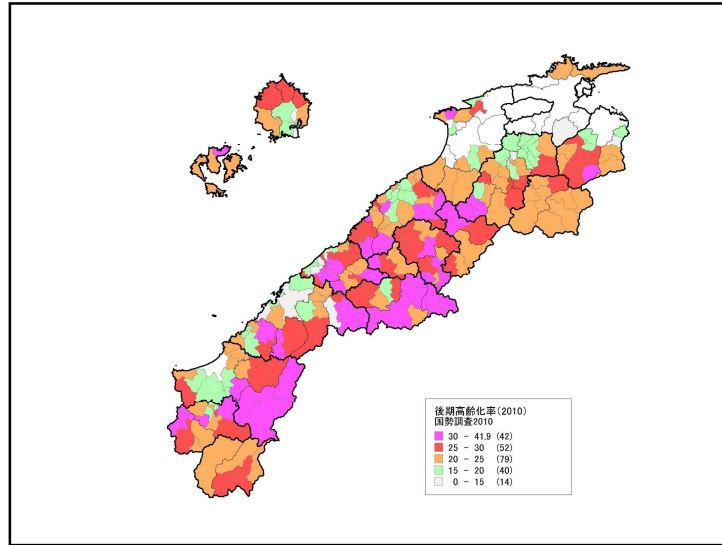
地域比較カルテ の使い方

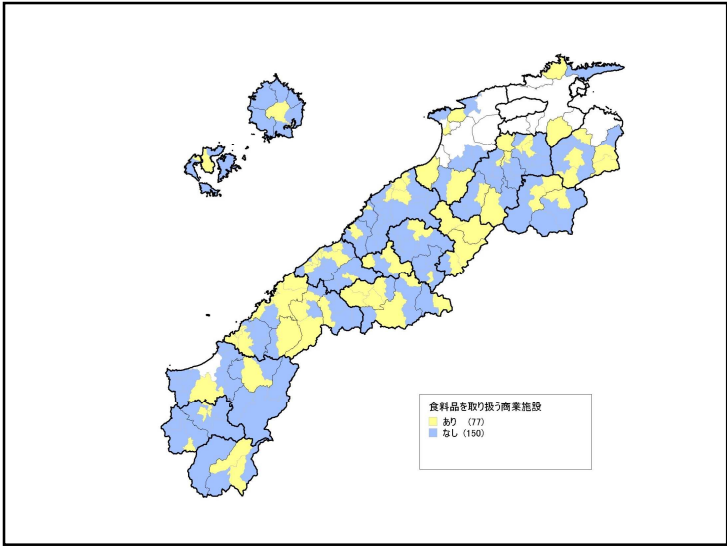
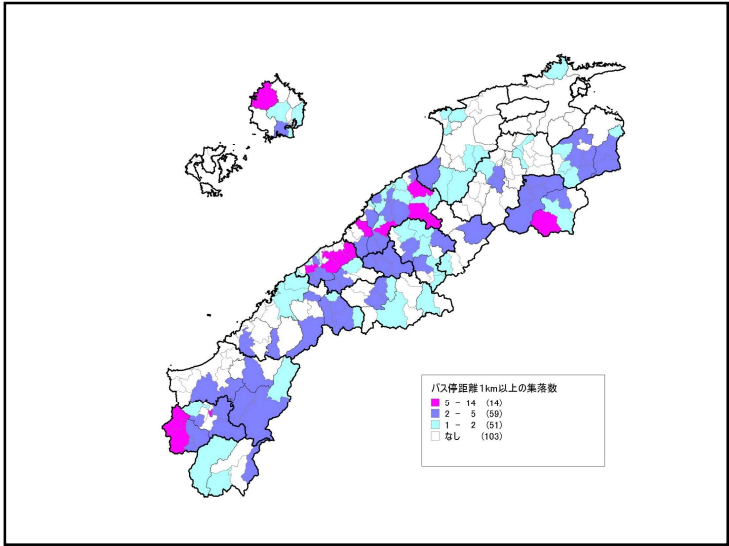
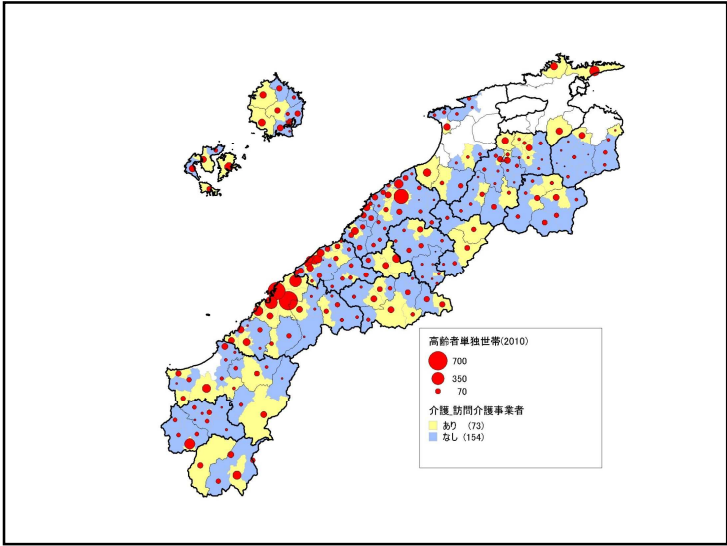
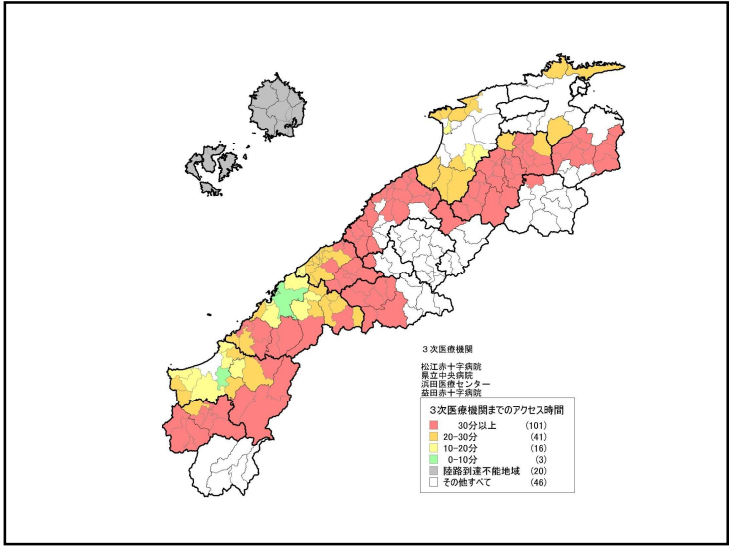
● 地域単位＝全県中山間地域の基礎的なコミュニティの227エリア(公民館区など)

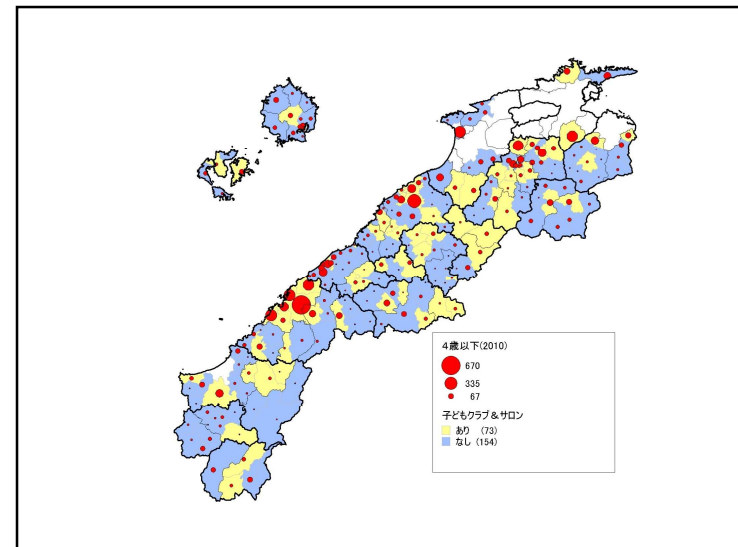
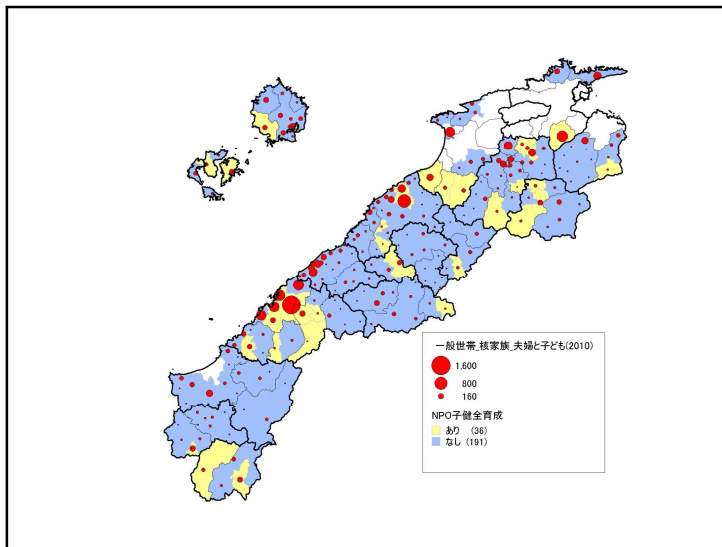
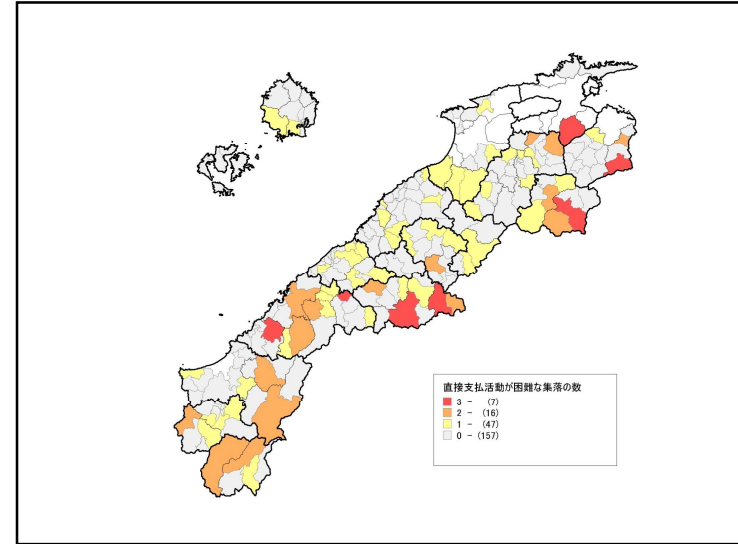
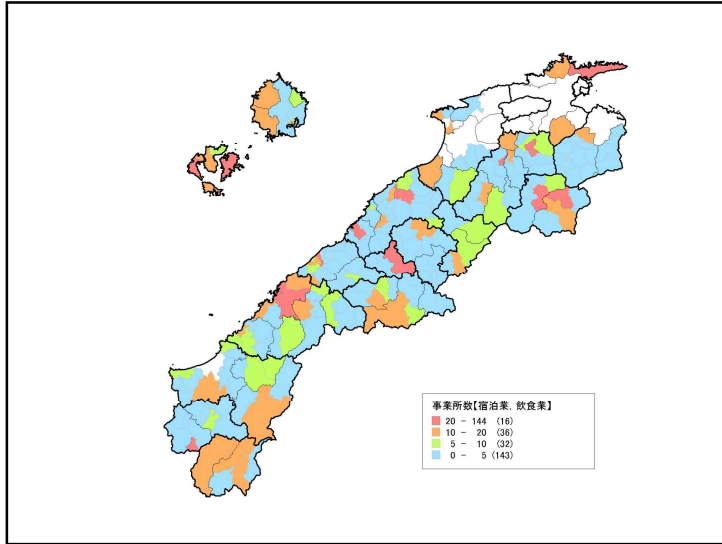
- ① **地域状況の総合的な診断・予測**
→ 人口増減、高齢化率、若年層、定住状況 & 必要数
- ② **各分野・部局ごとの地域診断**
→ 政策目標の達成状況、対象人口・世帯の分布等
- ③ **分野を横断した定住条件等の洗い出し**
→ 総合的な政策体系、施策複合化、条件整備など
- ④ **重点地区の選定、継続的な評価フォロー**
→ 緊急性、モデル性、到達度等による選定と評価

中山間地域の基礎的なコミュニティ(228エリア)



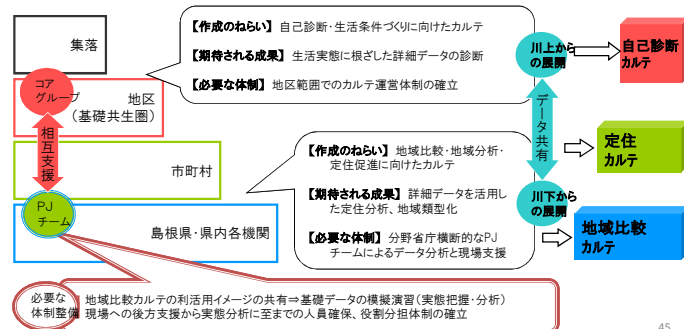






地域診断カルテの全体コンセプト

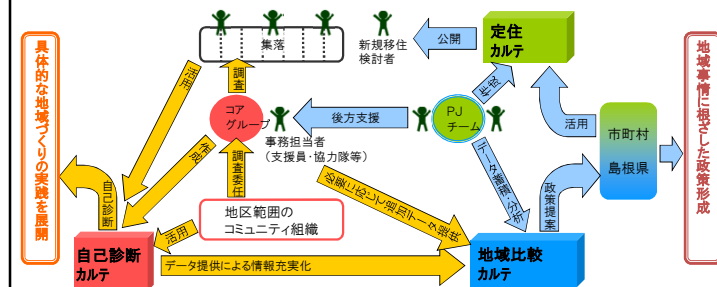
- 調査のみならず、調査→診断→行動までをワンセットにした展開
- 行政－住民相互が主導し、支援し合う一體的な調査の実施



45

地域診断カルテの運用体制

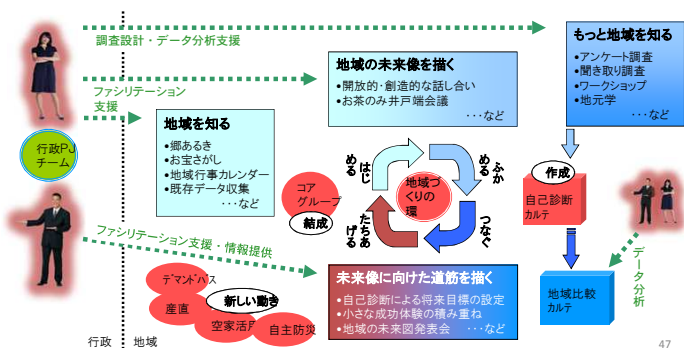
- 現地では地区(基礎共生圏)の範囲でコアグループを結成し自主運用を尊重
- 診断から具体的な行動に結びつけるために行政プロジェクトチームによる後方支援を展開



46

現場での自己診断カルテ作成と必要な後方支援

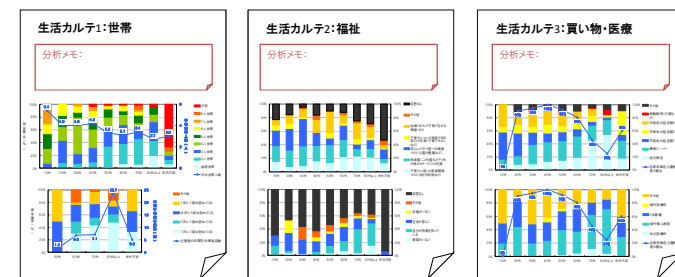
- 現場レベルではあくまで地域づくりの一環としてカルテを作成(自己目的化しないこと)
- PJチームによる後方支援: 現地と役割分担しつつ共同調査の形式で関与



47

自己診断カルテのイメージ①

- 作成: 生活カルテは、アンケートデータを主に年齢クロスによるグラフで整理し提示
- 診断: コアグループを中心に地域の現状と課題を読み取る作業(分析)を実施



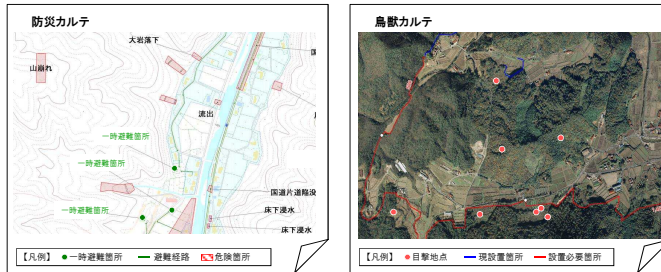
※図はイメージです。

客観データを概略化し地区・集落単位の地域比較カルテに書積

48

自己診断カルテのイメージ②

- 作成: 防災・鳥獣カルテはWS形式によるデータ収集を行い結果を地図で提示
- 診断: コアグループを中心に課題や対策検討用の資料として地図データを活用

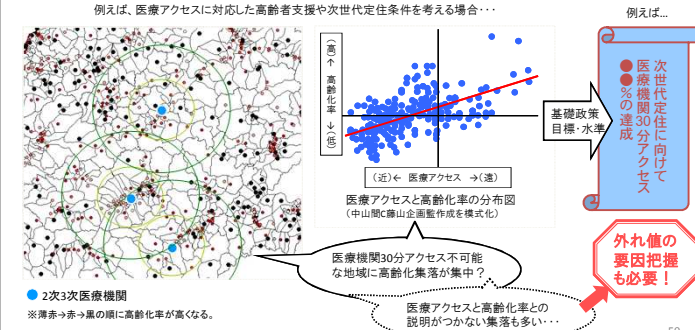


客観データを概略化し地区・集落単位の地域比較カルテに蓄積

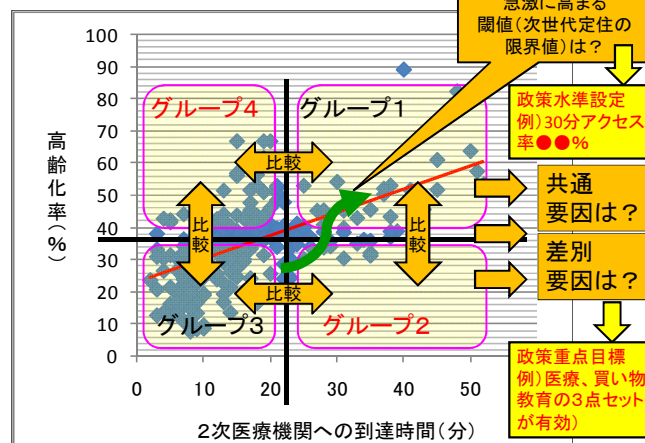
49

地域比較カルテの分析イメージ①

- 既存データの重ね合わせにより一定程度の基礎政策目標・水準の判断が可能
- 結果の解釈が困難な場合は、他の独立・詳細データを活用した分析が必要



●カルテの政策活用イメージ(藤山)



3. 集落の縁辺性と集落人口・世帯数増減、高齢化の関係

比較年次: 1999年と2004年、GISソフトはMapinfo Professional 7.5
道路ネットワークデータ: 2002年(中間時)

(1) DID(人口集中地区)からの到達時間

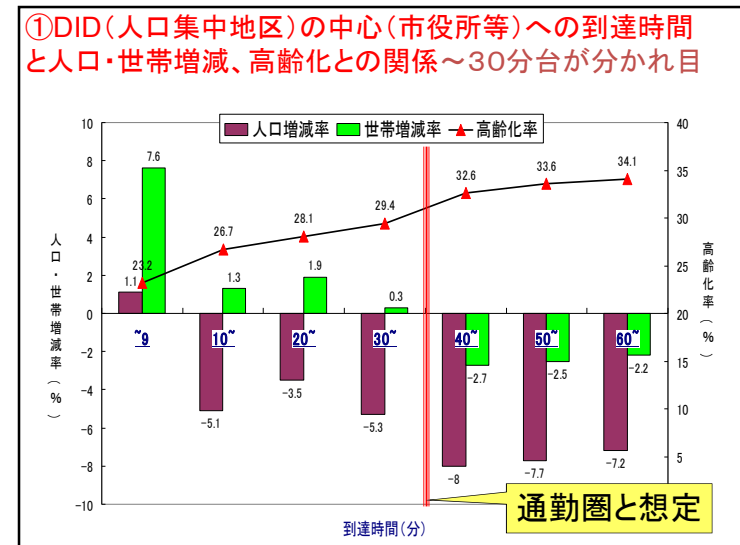
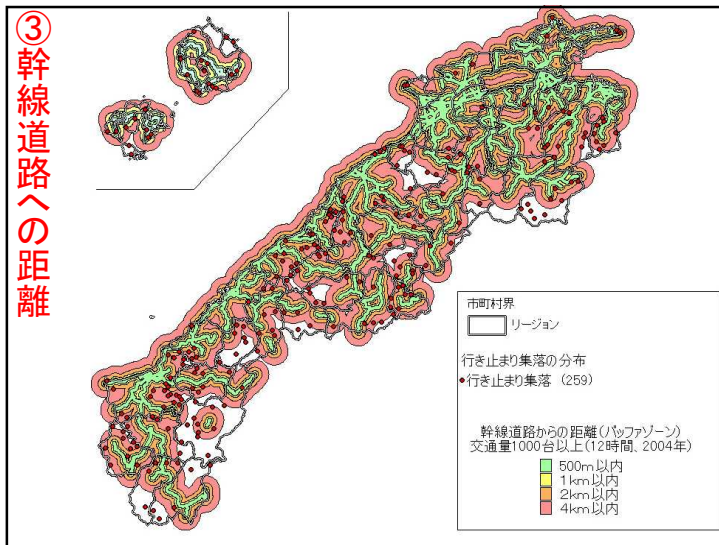
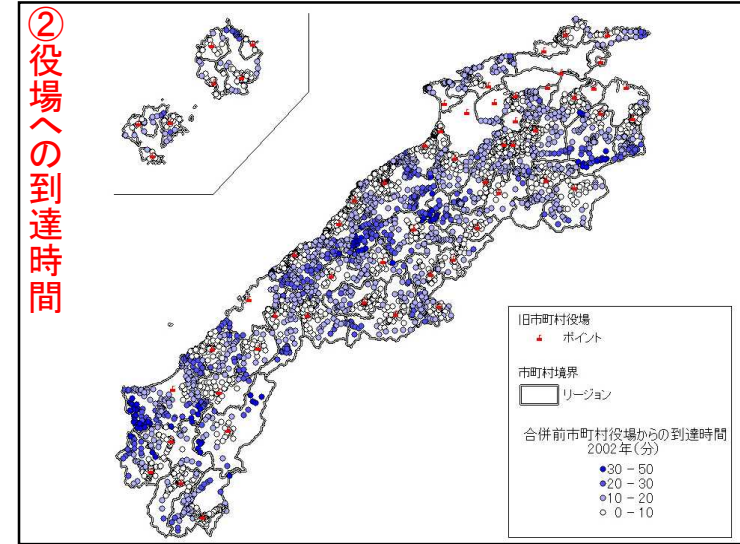
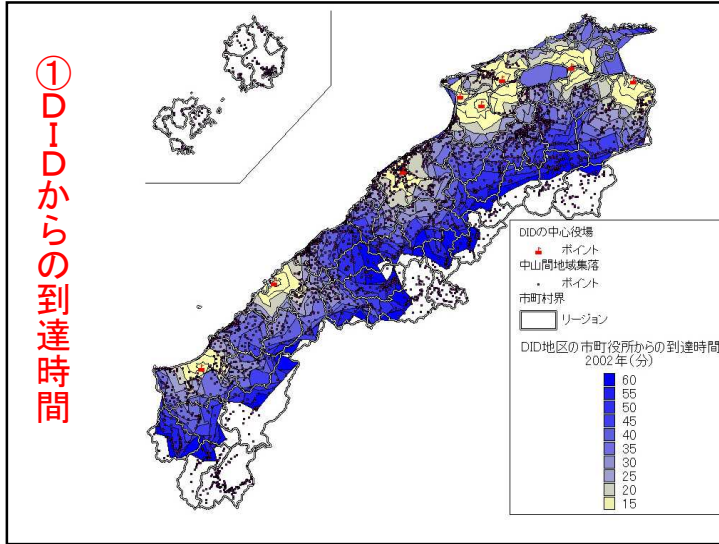
- ①DIDからの最短到達時間圏域を5分刻みで描画
- ②集落ポイントとオーバーレイ
- ③到達時間→集落データベース

(2) 合併前市町村役場からの到達時間

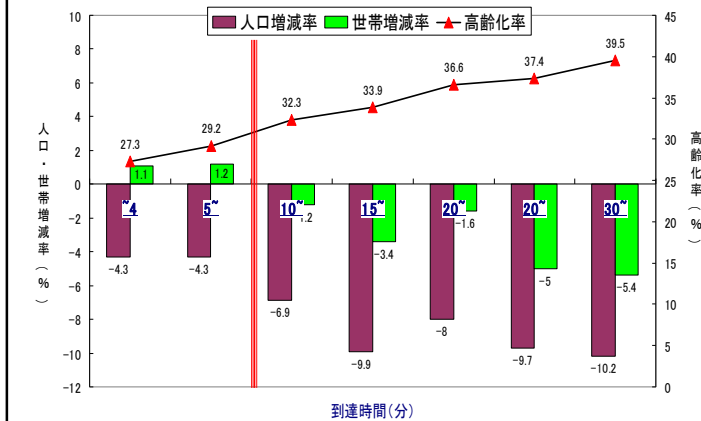
- ①各市町村役場からの最短到達時間→集落データベース
=「ACT距離計算パッケージ」使用

(3) 幹線道路からの到達距離

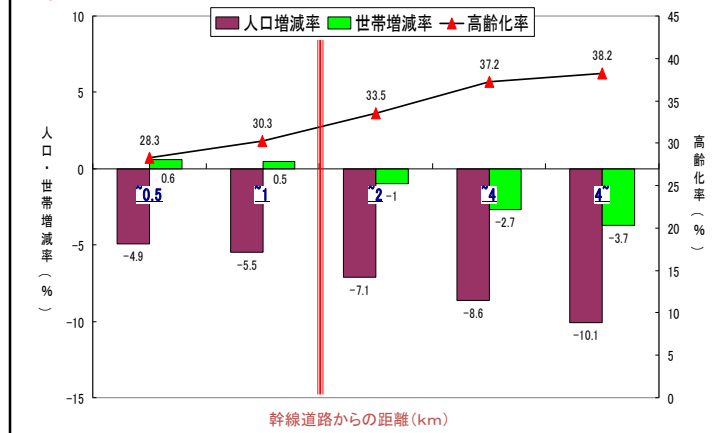
- ①12時間通行量が1,000台以上の道路区間を検索(国道・県道)
- ②5つのバッファゾーンを描画
(0.5km以内, 1km以内, 2km以内, 4km以内, 4km超)
- ③集落ポイントとオーバーレイ
- ④到達時間→集落データベース



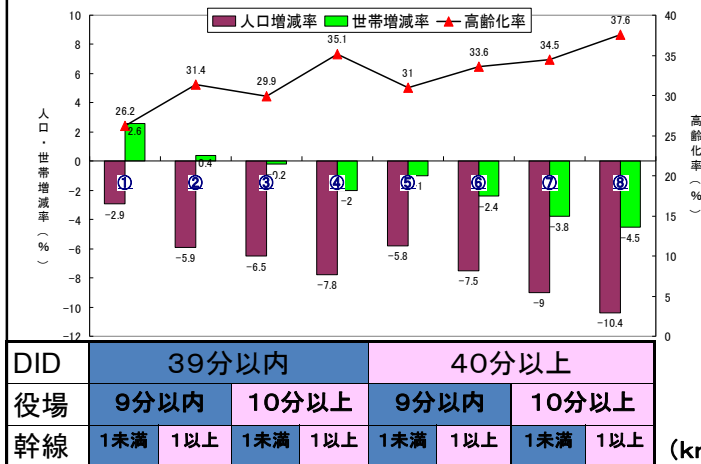
②市町村役場(合併前)への到達時間
と人口・世帯増減、高齢化との関係～10分が分かれ目



③幹線道路(12時間交通量1,000台以上:朝7時～夜7時)
への距離と人口・世帯増減、高齢化との関係～1kmが分かれ目

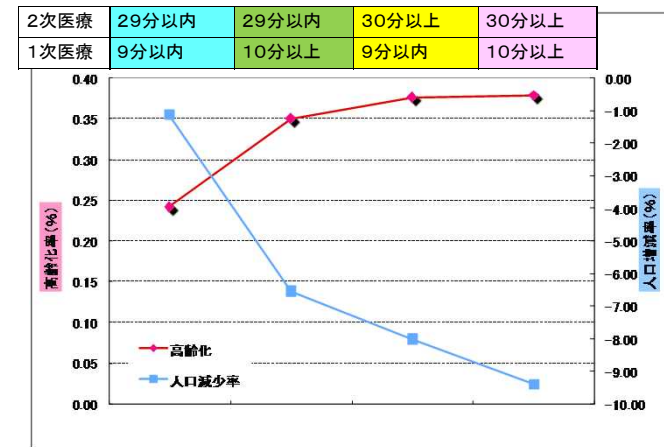


④総合的な縁辺性と定住～2つ以上の縁辺性が重なる
集落で、人口・世帯減少率が高く、高齢化が進行



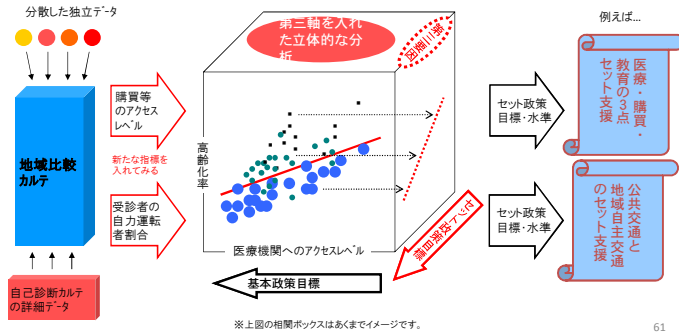
6. 1次・2次医療機関への複合的な到達時間と人口増減、高齢化率の関係

8 市町全体の集計では、2次医療機関から29分以内かつ1次医療機関から9分以内の類型においては、他の類型と比較して、人口減少率・高齢化率が共に低い傾向が明確となっている。



地域比較カルテの分析イメージ②

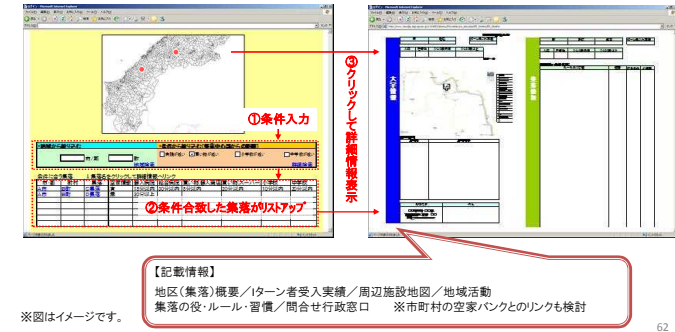
- 独立・詳細データの積載により説明困難だった事象の「第三の要因」の発見が可能
- 第三の要因発見により基礎政策目標に加え**セット政策目標**の提案が可能



61

定住カルテの活用イメージ

- 地域比較カルテを一部公開することで**定住希望者への地域情報の事前提示**が可能
- インターネットによる検索方式で**平易な情報収集・地域比較**が可能



62

資料：自己診断カルテの基礎データ項目

生活カルテ (世帯)	生活カルテ (福祉)	生活カルテ (買い物・医療)	防災カルテ	鳥獣カルテ
年齢・性別・集落	年齢・性別・集落	年齢・性別・集落	危険箇所	鳥獣目撃地点
世帯人数	生活満足度	主な買い物先	避難箇所	鳥獣被害田畑
独居・高齢のみ世帯の 近親者帰省頻度	生活の困りごと 子育ての困りごと	医療の主な受診先 移動手段(医療機関) 子どもの通学手段	避難経路 要支援者 支援者 備品の所在	防護柵等設置箇所
世帯状況から、「一つの 家庭の生活を地域ぐる みで支える」必要性につ いて検討可能になる	具体的な生活の悩みご とを調べることで、生活 を支えるための具体的メ ニューが検討可能になる	移動範囲を調べることで、 地域内交通網と地域内 に必要な生活サービス が検討可能になる	地図上に記載することで 災害時に必要な体制の 検討、および迅速な対 応が可能になる	地図上に記載することで 鳥獣被害の原因把握や 必要な鳥獣対策を地域 全体で検討可能になる

- データ・カルテ項目は上表を参考にあくまで現地(コアグループ)側で決定
- 現地の求めに応じて、その他のカルテ、マップ、WS等の整理図も作成

63

資料：地域比較カルテの基礎データ項目

基礎データ	生活データ	防災データ	農業データ	その他データ
人口	近隣医療機関	地滑り危険指定箇所	集落営農組織	将来予測人口
世帯数・平均世帯数	近隣の日用品購買先	河川堤防危険箇所	中山間等直弘エリア	将来予測高齢化率
高齢化率・人口増減率	近隣の学校	指定避難箇所	農地・水共同活動エリア	地域活動事例組織
人口・世帯増減率	最寄の交通機関	防災拠点	農林業センサスデータ	目標定住人口
独居・高齢のみ世帯の 近親者平均帰省回数	主な買い物先 医療の主な受診先 移動手段(医療機関) 子どもの通学手段	一時避難箇所 要支援者／支援者割合 地域防災対策状況	鳥獣出没・被害状況 鳥獣対策状況 農地管理方法 農地貸付意向	直近のUターン者構成 地域づくり人材配置状況 地域自主組織設置状況 地域自主組織活動状況

- 既存データ(上段部分含む)をデータベース化・地図化により集積中
- 自己診断カルテからのデータ積み増し(下段部分)により分析指標を充実化

64